

第5・6学年 国語科学習指導案

平成19年11月26日(月)5校時
第5学年 男子5名女子5名 計10名
第6学年 男子3名女子3名 計6名
指導者 村部 誠

1 単元名 5年：目的に応じた伝え方を考えよう

(教材名「ニュース番組作りの現場から」【説明文】「工夫して発信しよう」「編集して伝える」光村5年下)

6年：筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう

(教材名「平和のとりでを築く」【説明文】「自分の考えを発信しよう」「インターネットと学習」光村6年下)

2 単元のねらい

(第5学年)

この期の児童は、これまでに社会科学習などを通して世の中についての興味・関心を高めてきている。また、ニュース番組を注意して見ることは少なくとも、ニュース番組がどんなものであるかについてのイメージはなんとなくもっている。

また、第四学年の「伝えたいことをはっきりさせて書こう」(教材名「新聞記者になろう」)の単元で、情報を発信する方法について、「材料の選び方を考えよう」(教材名「アップとルーズで伝える/四年三組から発信します」)では、多くの情報の中から適切な材料の収集を行う方法について学習をしてきた。

そして、第四学年の「段落のつながりに気を付けて読もう」(教材名「かむ」こと力)・第五学年「読書の世界を広げよう」(教材名「千年の釘にいどむ」)では、段落ごとに大事なことを読み取る学習をしている。

そこで、本教材「ニュース番組作りの現場から」では、ニュース番組制作の現場について書かれた文章を読み取ることで、取材を通して情報がどう集められるのかや、撮影やインタビューの手順、さらには映像の編集や原稿の書き方等の全体の流れを知ることができる。また、本教材「工夫して発信しよう」・「編集して伝える」では、発信する活動を行うことで、視聴者として接するだけのニュース番組を、より客観的・立体的に見ることができるようになるものと考えられる。

本単元の学習は、「筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう」(教材名「平和のとりでを築く」【説明文】「自分の考えを発信しよう」光村6年下)の学習へと発展するものである。

(第6学年)

この期の児童は、これまでの学習や社会科の学習から、日本が過去に経験した戦争や、甚大な被害を受けた原子爆弾のことは知っている。しかし、現に今も戦争で苦しんでいる同世代の子どもたちがいることを真剣に考えている児童は少ない。

また、本学級の子どもたちは、三年下巻で学習した「場面の様子を想像しながら読もう」(教材名「ちいちゃんのかげおくり」)や、四年下巻場面をくらべて読もう(教材名「一つの花」)で、戦争のもたらす悲惨さや平和の大切さについて学習してきた。

そして、第六学年「文章を読んで、自分の考えをもとう」(教材名「生き物はつながりの中に」)や「読書の世界を深めよう」(教材名「森へ」)では、生命の素晴らしさや偉大さを読み取ってきた。

そこで、本教材は「平和のとりでを築く」と「自分の考えを発信しよう」「インターネットと学習」から構成されている。「平和のとりでを築く」を読み取るとともに、「平和」というテーマにかかわる多様な材料を集め、自分なりの考えをもち、発信していく学習をさせたい。さらに、これからの社会の在り方は自分たち自身の問題として「平和」を考え、まとめる力を育てたい。そして、さまざまな情報を集め、それに学ぶだけでなく、それをもとに自分なりの考えを深め、その考えを外部に発信するということで表現力育成を目指すことができると考える。それは、未来を担う一員である六年生にとって、大変意義深いことであると考えられる。

本単元の学習は、「学習したことを生かして」(教材名「海の命」「今、君たちに伝えたいこと」「生きる」【総合教材】光村6年下)の学習へと発展するものである。

3 単元の目標

文章構成をつかみ、要旨をとらえて、ニュース番組がどのように作られるかを知り、伝えたいことと伝える方法について興味を深める。

伝えたいことをどのように伝えるかをグループで協力して考え、形にして発信する。

筆者が訴えたいことを読み取り、それについて自分の考えをもつ。

「平和」についてさらに考えるために調べたり話合ったりし、深まった考えを分かりやすく組み立てて書いて交流する。また、今後も考え続ける意欲をもつ。

4 単元について

本単元は、「ニュース番組作りの番組から」という教材文と「工夫して発信しよう」「編集して伝える」という教材文との複合単元である。

本教材「ニュース番組作りの番組から」は、ニュース番組の特集の作り方についてまとめた文章である。時間に沿って、報道スタッフの役割や情報収集、編集会議の在り方、伝えたい内容の絞り込み方などが分かりやすく整理されている。その点で本教材は、ニュース番組の作り方に関する情報提供としてだけでなく、時系列に沿って大事な事柄に注意して読み取る文章としても適している。

「工夫して発信しよう」「編集して伝える」では、発信する情報の出来そのものが重要なのではなく、受け手にとって意味のある話題をどう取り上げるか、取材のための方法にはどのようなものがあるか、どういう情報（材料）が必要か、伝えたいことの方がよく分かるようにするにはどう編集したらよいか、などを考えることを通して、目的に応じた情報の配列・編集などについての理解を深めることができる。

本教材で身に付けたい力は、以下のとおりである。

(1) 話す・聞く力

自分の伝えたいことや意図が伝わるように、話の組み立てを工夫しながら、適切な言葉遣いで話す。

(2) 読む力

番組作りの大切な点を的確に押さえながら、報道スタッフの願いなどを読み取る。(イ)

自分たちが番組を作るために必要な事柄を時間の順序にしたがって段階ごとに読み取る。

(3) 書く力

自分が伝えたいこと、相手が知りたいことなどを考えて発信する。

編集作業を通して、書く必要のある事柄を整理する。

集めた材料を、目的に合わせて整理し、加工して伝える。

5 研究テーマとの関連

<本校研究テーマ>

子ども一人一人が、自分の思いや考えを豊かに表現する力を身に付けるための学習指導はどうか。

～国語科（話す・聞く・話し合う）学習を通して～

(1) 指導過程の工夫

本教材の中では、「深める」「まとめる」の段階で、ペア学習やグループ発表などを必ず行うことにし、表現力育成に努める。また、複式学級であるので、ガイド学習を通して、リーダーとしての資質や話し合い考えをまとめる力を伸ばしていけると考える。リーダーでなくても、話す・聞く・話し合う力は、常に伸ばしていける環境であると考え。

「生かす」段階では、振り返りの場をできる限り設定し、相手に伝え、相手の話を聞く場を作っていきたい。それが、自分の考えを相手に伝える力・共感しながら聞く力を伸ばしていくと考える。

(2) 学習環境整備と教具の工夫

授業の流れが分かるように、ホワイトボードに毎時間ごと授業の進め方を記入していく。また、自分の考えを発表できるように、小黒板や黒板に直接書かせるように指導していく。また、これらの内容は、今回の学習で終わるのではなく、他教科や全領域で継続して指導していく。

(3) 全体（大勢）の前での発表

朝の会での1分間スピーチやガイド学習などで培った表現力を、児童集会・音楽集会・交流学习などで生かしていく。大勢の場での発表の機会を今後も増やしていく。

本単元は、「平和のとりでを築く」と「自分の考えを発信しよう」「インターネットと学習」から構成されている。

「平和のとりでを築く」は、原子爆弾によって「傷だらけ」となった物産陳列館が、多くの人々平和を願う心によって、世界遺産「原爆ドーム」となった経緯を述べた文章である。唯一の被爆国である日本の国民としてぜひ知っておきたい歴史的事実と、「原爆ドーム」が世界遺産となった意味についての筆者の考えを丁寧に読み取ることにより、「平和」に対する自分の考えをもち、「平和への意識」を高めることができる。また、本教材の構成から、自分の考えを明確に表現するために、効果的な文章の組み立てを考えることができる。

「自分の考えを発信しよう」「インターネットと学習」では、「平和」に関するさまざまな情報を集め、それに学ぶだけでなく、それをもとに自分なりの考え深め、その考えを意見文として発信することで表現能力を高めることができる。

本教材で身に付けたい力は、以下のとおりである。

(1) 読む力

「平和のとりでを築く」という題名が意味することに注意しながら読む。

筆者の考えをまとめ、自分はどのように考えるかをまとめる。

テーマに即して本を選び、自分の考えをまとめるために読む。

(2) 書く力

「仮の要旨」から「確定した要旨」への過程で必要な材料を選び直す。

自分の考えを明確に表現するために、効果的な文章の組み立てを考える。

事実と意見を区別して書いたり、対立する意見を取り上げて反論を述べたりする。

(3) 言語の力

文章にはいろいろな構成があることを知り、適切なものを考える。

6 児童の実態

本学級の子どもたちの実態調査を行い，結果は以下のとおりである。(11月6日実施 16名回答)

5年(10名)	6年(6名)
<p>国語の勉強は好きですか。</p> <p>はい 9名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の勉強ができるから(3名) ・音読が楽しいから(1名) ・将来必要なことを学ぶから ・いろいろなことが分かるから <p>いいえ 1名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字が苦手だから 	<p>国語の勉強は好きですか。</p> <p>はい 4名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語や説明文などを読みとれるから(2名) ・話合いが楽しいから(2名) <p>いいえ 2名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字が苦手だから(2名)
<p>自分の考えを发表或したり，人の意見を聞いた り，話し合ったりするのは好きですか。</p> <p>はい 10名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを他の人に知ってもらえる。 ・自分の意見やみんなの意見が分かるから。 ・人の意見を自分の意見に使うことができるから。 ・大事なところを話し合うのが楽しいから。 <p>いいえ 0名</p>	<p>自分の考えを发表或したり，人の意見を聞いた り，話し合ったりするのは好きですか。</p> <p>はい 5名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の意見を聞くことで自分の意見と比べられるから ・他の人の考え方がよく分かるから。 ・自分のためになるから。 <p>いいえ 1名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭の中がごちゃごちゃになる。
<p>自分の考えを文章にするのは好きですか。</p> <p>はい 7名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を文章にまとめるのが楽しい。 ・自分の思ったように何でも書けるから。 <p>いいえ 3名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間がかかる。 ・書くより話す方が早い。 ・何が書きたいのか途中で分からなくなる。 	<p>自分の考えを文章にするのは好きですか。</p> <p>はい 5名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいにまとまるとうれいしいから。 ・たくさん書いてみんなに発表したいから。 ・自分の考えや意見を主張できるから。 <p>いいえ 1名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迷ってしまって書けないことがあるから。
<p>ニュース番組について知っていることは何です か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の情報を発信する。(2名) ・共通語を使っている。 ・編集している。 ・生放送で流れていることがある。 ・たくさんの人がかかわっている。(4名) 	<p>平和とはどのようなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが平等で楽しく暮らせる世の中。(2名) ・おそろしいものがない。 ・犯罪や戦争がない生活。(3名)
<p>ニュース番組を作るために必要な過程は何でし ょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取材 ・編集 ・打ち合わせ 	<p>今，平和ですか。「平和でない」と答えた人は 理由まで書きましょう。</p> <p>平和だ(1名)</p> <p>平和でない(5名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界では，戦争が起こっているから。
<p>特集番組を作るための企画書には，何を書いた らいいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容 ・出演者 	<p>平和のためにあなたができることは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の立場に立つ。 ・平和になるために多くの人の前で訴える。 ・争う心をもたない。 ・いじめをなくす。(2名) ・戦争をする大人にならない。

(5年)

A	<p>ここには，児童一人一人の詳しい実態を記入する。</p>
B	
C	
D	
E	
F	

G
H
I
J

(6年)

K	ここには、児童一人一人の詳しい実態を記入する。
L	
M	
N	
O	
P	

(1) 考察

(5年)

アンケートや実態から、子どもたちは国語の学習に興味をもっており、意欲的に学習している。授業中は、全員集中しており、聞く姿勢は非常にいいと考える。また、自分の意見を発表したり、話し合ったりすることには抵抗感がなくなりつつあり、ガイド学習の成果が表れてきていると考える。しかし、漢字を苦手とし、国語の学習に抵抗を感じる子がおり、発表に消極的な面をもつ子もいるのが現状である。

また、ニュース番組については、見た経験があり、少しは内容を理解している。しかし、どのような過程でニュース番組が作られ、どのような人たちが関わっているのかまでは正確に理解していない。そして、ニュースの話題を決めるときに、相手意識や目的意識に欠けるところがある。

そこで、本単元では、段落のつながりから番組作りの過程を詳しく読み取り、それぞれの過程で、大事な点や気を付ける点をまとめさせたい。また、読み取ることが難しいくないように、教科書にアンダーラインやペア発表などを取り入れ、全員が読み取れる手だてを行いたい。社会科とのつながりもあるので、横断的な指導も行っていきたい。

7 指導上の留意点

- (1) 教材文最後の段落に着目させ、要旨をしっかりとおさえ、番組をつくるときには相手意識・目的意識をもって作らないといけないことをしっかりとおさえさせる。
- (2) 番組作りの過程や過程ごとに大事な点をまとめた後は、お互いに意見を交流させ、考えを深める場を設定する。
- (3) 番組作りは、グループ単位で行い、いろいろな役割の中で番組を作っていくことで、番組作りの過程や大変さなどを実感させていく。

(6年)

アンケートや実態から、子どもたちは国語の学習に大変興味をもっており、日々授業では集中して取り組んでいる。自分の意見は積極的に発表し、友だちの意見もよく聞いている。ガイド学習4年目ということもあり、一人一人が自分たちで話し合いを進めることができ、自分たちの意見をまとめる力がある。しかし、漢字を苦手としていることで、国語の学習に抵抗を感じている子もいる。

また、平和については、「ちいちゃんのかげおくり」や「一つの花」、社会科の学習などで考えてきたことなので、自分の考えをしっかりと持っている。しかし、人間のどのような心が戦争を引き起こすかまで考えるには至っていない。そして、現状だけを見て、世界は平和と感じている子もいる。

そこで、本単元では、原爆ドームのたどった歴史を読み取り、そこから筆者は何を伝えたいのかを詳しく読み取らせていきたい。その中で、筆者の考えに対する自分の考えを、グループやペア発表で交流し、平和への思いを深めていきたい。

- (1) 「平和」についての一人一人の多様な考えを出させ、話し合わせることにより、自分になかった考えに触れて自分の思いを深めることができるようにする。
- (2) 振り返りの場を設定し、自分の思いや考えが深まったことを振り返らせ、達成感や成就感を味わわせる。
- (3) 「平和のとりでを築く」の文章構成をもとにして、効果的な文章の組み立てができるようにし、まとめたものは外部に向けて発信させる。

